

文教産業委員会

高山市平和都市宣言に向けた取り組みについて

4月20日（報告事項）

市では、平和都市宣言検討会議を中心に「高山市平和都市宣言」向け、取り組みを進めている。その主な内容について、報告を受けた。

【概要】

検討会議は市民22人で構成され、平成27年9月より検討を重ね、このたび宣言文案を作成された。

文案は、4月から6月にかけて、市民意見を募集し、それらを踏まえ再検討され、市に提出される予定である。

【論点①】 取り組みの周知や意識醸成の図り方

- ・ 学校教育の場や、様々な団体を通じ、あらゆる場面で周知できる方法を検討する。

- ・ 市民一人一人が自発的に、あらゆる方々に対し、恒久平和の実現を発信できるものにしていきたい。

【論点②】 具体的な行動を促すこと自体が多様な価値観や感性を阻害する可能性があるのでは。

- ・ 宣言文の位置づけや取り扱いについて、検討会議と共に十分検討したい。

飛驒高山ブランド戦略の策定について

5月20日（報告事項）

市は、平成28年3月、飛驒高山ブランド戦略を策定した。この件は、1月の当委員会での協議

され、委員会としての意見を示しており、その検討結果について、報告を受けた。

■ 委員会意見と対応

① ブランドコンセプトに「本物」という表現

の記載が必要か検討すること。

- ・ 飛驒高山の暮らしや風土から生み出された産物を大切に磨き上げていくことと「本物とは何なのか」を追求することがブランド力を高めることにもなることを、素案のとおり「本物」を採用した。

② 「平和」に関する取り組みの記載が必要か検討すること。

- ・ 国内外を問わず社会が平和であってこそ、人やモノの往来や交流といった活動が盛んに行われ、そうした活動を通して飛驒高山ブランドの魅力・価値を広く発信できることから、平和実現のための施策は大切と考え、素案のとおり採用した。



飛驒春慶

【論点①】 「本物」という言葉は、ものづくりばかりが強調される上、同時に「偽物」という言葉をつくることになる。

- ・ 広範なブランドデザイン活動・自由な経済活動の阻害も懸念されるが。

- ・ 分かりやすい表現が必要と考え、採用した。「本物」を使うことにより、そこから漏れてしまうもの、そういったものづくりをするに当たって意欲を失うことのないよう丁寧に対応していく。

【論点②】 「平和」がブランド戦略のツールとして捉えられてしまうのでは。

- ・ こういった個別の計画全てに、平和への取り組みを入れることが妥当とは言えないが、当計画においては、誤解のないよう丁寧に説明していく。

■ 自由討議

特にブランドコンセプトの在り方の議論がなされ、研究課題として取り上げ、進捗に注

視していくこととした。

高山市海外戦略の見直しについて

5月20日（報告事項）

市では、平成28年3月、戦略の見直しを行った。ブランド戦略同様

に、1月の当委員会での協議されており、委員会として示した意見やパブリックコメントに対する検討結果について、報告を受けた。

【委員会意見と対応】 「平和」に関する取り組みの記載は必要か再検討すること。

- ・ 飛驒高山ブランド戦略と同様に、前提としての平和の大切さにより、素案のとおり採用した。

■ パブコメ意見と対応

医療インフラに対する視点が欠けている。医療機関や従事者の多言語対応の強化を進めたい。

- ・ 「外国人観光客の受入体制の強化」に関する取り組みとして、「医療機関・従事者の多言語対応の強化」を行うこととし、追加記

載する。

【論点①】 イスラム圏等、文化・宗教的背景を持つ観光客への配慮は。

- ・ 民間の方々と共に、徐々にサービスを拡大している。

【論点②】 外国人観光客に対する医療・防災体制の充実と対応状況は。

- ・ 一部の病院施設では外国語対応の取り組みもされている。今後、交通事業所・警察・病院・宿泊施設等と検討を急ぎ、マニュアル作成等に着手していく。



多くの外国人観光客

※平和都市宣言文案・ブランド戦略・海外戦略の詳細については、広報たかやま（4/15号・5/1号）をご参照ください。